



PORSCHE



ニューポルシェ パナメーラ ターボ S E-ハイブリッド

プレスキット

目次

ハイライト

最もパワフルなパナメーラ、ターボS E-ハイブリッド 3

概要

918スパイダーのドライブコンセプトを採用したパナメーラの新しいトップモデル 5

プラグインハイブリッドテクノロジーと4WD

新たな水準のハイブリッドパフォーマンス 8

駆動システム

電気モーターとV8ツインターボエンジンの技術的詳細 11

コネクティビティとインテリアコンセプト

ハイブリッド専用ディスプレイを備えたポルシェ・アドバンストコックピット 13

アシストシステムと快適システム

ネットワーク化されたインテリジェンス：ナイトビジョンアシスタントとポルシェ・イノドライブ 18

シャシーとシャシーシステム

パフォーマンスと快適性の幅広いバランス 21

エクステリア

ニューパナメーラのデザインはポルシェ911との架け橋 25

標準装備

エアサスペンション、21インチホイール、セラミックブレーキを標準装備 27

オプション装備

ニューポルシェ パナメーラは個性のためにデザインされている 29

燃料消費量とCO₂排出量 33

ハイライト

最もパワフルなパナメーラ、ターボS E-ハイブリッド

1. モデルラインのフラッグシップ。

ターボS E-ハイブリッドは、モデルラインのフラッグシップとしてプラグインハイブリッドドライブを選んだ初めてのモデルです。

2. 911のような加速。

新しいプラグインハイブリッドドライブは850N・mのトルクを発生し、グランツーリスモを3.4秒で100km/hに到達させます(エグゼクティブ:3.5秒)。

3. 918スパイダーから着想を得る。

ブーストプログラムは918スパイダーから採り入れました。エレクトリックドライブはエネルギー効率に優れるだけでなく、さらなる推進力ももたらします。

4. 持続可能なエネルギー利用。

パナメーラ ターボS E-ハイブリッドの新ヨーロッパ走行サイクル(NEDC)に基づく燃料消費量は2.9リッター/100km、電力消費量は16.2kWh/100kmです。

5. ゼロエミッション走行。

電動航続距離が50km/h(NEDCに基づく)のパナメーラ ターボS E-ハイブリッドは、電気駆動のみでこの距離を走ることができます。

6. 拡張された装備範囲。

トップモデルを特徴付けているのが、エアサスペンション、セラミックブレーキ、21インチホイール、アクティブシャシー、BOSE® サウンドシステムなどを含む大幅に拡張された標準装備です。

7. 4WDを標準装備。

ニューパナメーラ ターボS E-ハイブリッドは、アクティブ制御の4WD(ボルシェ・トラクション・マネージメントシステム)を標準装備しています。

8. 2種類のホイールベース。

ホイールベースを延長したパナメーラ ターボS E-ハイブリッドのエグゼクティブモデルが、中国では標準仕様車として、その他の市場ではオプションとして用意されます。

概要

918スパイダーのドライブコンセプトを採用したパナメーラの新しいトップモデル

バンクーバー:パフォーマンス、快適性、効率性をかつてないほどに兼ね備え、500kW/680PSを発生するニューパナメーラ ターボS E-ハイブリッドは、ポルシェにおけるE-モビリティの重要性を強調します。シットアウトガルトを拠点とするスポーツカーメーカーは、初めてプラグインハイブリッドをモデルラインのトップモデルにしました。最高速度が310km/hに達するパナメーラ ターボS E-ハイブリッドは、電気モーター(100kW/136PS)とV8ガソリンターボエンジン(404kW/550PS)によって動力を供給されます。この複合駆動システムにおけるパフォーマンス指向のブーストプログラムは、最初、ポルシェのスーパースポーツカーである918スパイダーのために設計されました。このグランツーリスモモデルは、最長50kmの距離を電気駆動のみでゼロエミッション走行することができます。

最大限のパフォーマンスと高いエネルギー効率のために設計されたブーストプログラム

パナメーラ ターボS E-ハイブリッドの最大の特徴は、広いエンジン回転域での卓越した出力特性です。この車は、アイドリング回転数のすぐ上で(1,400rpm以上)850N・mのトルクを発生させます。この数値は、5,500rpmに至るまで変わりません。8速ポルシェ・ドッペルクップリング(PDK)トランスミッションは、4WDシステムのポルシェ・トラクション・マネージメントシステム(PTM)へ駆動力を伝えます。電気モーターとV8エンジンは、このポルシェを3.4秒で100km/hに到達させます(ホイールベースが延長されたエグゼクティブモデルでは3.5秒)。ブーストプログラムは、スーパースポーツカーの918スパイダーに使われているシステムから着想を得ました。エレクトリックドライブは、並外れたエネルギー効率だけでなく、さらなる推進力をもたらします。これは、追加の電動ターボを生み出すようなものであり、これによってポルシェは、パナメーラを同じセグメントで競合するツーリングセダンとは一線を画すスポーツカーとして差別化しています。

最大50kmの距離を電気駆動のみでゼロエミッション走行

この並外れたパフォーマンスには、傑出した効率性が伴います。新ヨーロッパ走行サイクル(NEDC)に基づく平均燃料消費量は2.9リッター/100km、電力消費量は16.2kWh/100kmです。パナメーララインのトップモデルは、最大50kmの距離を電気駆動のみで走行することができます。これだけ

の電動航続距離があれば、パナメーラ ターボS E-ハイブリッドの多くのドライバーは、エミッションを全く発生させずに毎日通勤することができるでしょう。たとえばパナメーラの母国であるドイツでは、連邦交通デジタルインフラ省の調査によると、全ドライバーの80パーセントの走行距離は、1日あたり50km未満です。

7.2kWオンボードチャージャーは230V電源から2時間以内でバッテリーを充電

ハイブリッドモデルの電気モーターは、エネルギー容量14.1kWhの水冷式リチウムイオンバッテリーから電力を供給されます。リアに搭載される高電圧バッテリーは、230V/10A電源から6時間以内にフル充電されます。標準装備の3.6kWチャージャーの代わりにオプションの7.2kWオンボードチャージャーと230V/32A電源を使用すれば、わずか2時間以内でバッテリーがフル充電されます。また、ポルシェ・コミュニケーション・マネージメントシステム(PCM)やポルシェ コネクト アプリ(スマートフォンとApple® Watch用)を介してタイマーで充電を開始することもできます。さらに、パナメーラ ターボS E-ハイブリッドには、充電中でもパワーグリッドからのエネルギーで車内の冷暖房を行う補助エアコンが標準装備されます。

スポーツカーの走り、長距離走行時の快適性、そして効率性を絶妙なバランスで融合

ポルシェ パナメーラ ターボS E-ハイブリッドは、電気駆動での走りに真のスポーツカーのパフォーマンスとツーリングカーの快適性を融合させたクラスで唯一の車です。先立ってデビューしたパナメーラ 4 E-ハイブリッド(340kW/462PS)に続き、モデルラインの中で2番目のプラグインハイブリッドモデルとなるパナメーラ ターボS E-ハイブリッドは、ポルシェにおけるE-モビリティの重要性を強調します。

ポルシェ・ダイナミックシャシー・コントロール・スポーツ (PDCC Sport)、エアサスペンション、21インチホイールを標準装備

パナメーラ ターボS E-ハイブリッドの拡張された標準装備には、補助エアコン、ポルシェトルク・ベクトリングプラス(PTV Plus)を含むポルシェ・ダイナミックシャシー・コントロール・スポーツ(PDCC Sport)、ポルシェ・セラミックコンポジット・ブレーキ(PCCB)、パワーステアリング・プラス、および911ターボ デザインの21インチ軽合金製ホイールが含まれます。さらにベーシックなパッケージには、アダプティブエア

ロダイナミクスエレメントや、ポルシェ・アクティブサスペンション・マネージメントシステム (PASM) を含む3チャンバーエアサスペンションシステムも含まれます。また、エグゼクティブバージョンには、リアアクスルステアが標準装備されます。

プラグインハイブリッドテクノロジーと4WD

新たな水準のハイブリッドパフォーマンス

ポルシェは、V6ツインターボエンジンと電気モーターによって動力を供給するパナメーラ4 E-ハイブリッドに続き、ニューパナメーラ ターボS E-ハイブリッドにおいてもハイブリッドテクノロジーの大きな潜在性能を再び実証します。ポルシェは、このモデルラインのトップモデルにおいて、100kW/136PSの電気モーターに404kW/550PSのV8ツインターボエンジンを組み合わせています。両方の駆動システムが協調することで、500kW/680PSのシステム出力と850N・mのシステムトルクを自在に使うことができます。走行中に実行されるブーストプログラムは、918スパイダーから採り入れられました。エレクトリックドライブは、並外れたエネルギー効率だけでなく、さらなる推進力をもたらします。これは、追加の電動ターボを生み出すようなものであり、これによってポルシェは、パナメーラを同じセグメントで競合するツーリングセダンとは一線を画すスポーツカーとして差別化しています。

エレクトリッククラッチアクチュエーターと素早い8速PDK

電気モーターとガソリンエンジンは、ポルシェ ハイブリッドモジュールの中でデカップラーを介して接続されます。この電気機械式に操作されるエレクトリッククラッチアクチュエーター(ECA)は、素早い応答時間と並外れた快適性を保証します。高速シフトを実現する8速ポルシェ・ドッペルクップルング(PDK)は、標準装備のアダプティブ4WDシステムであるポルシェ・トラクション・マネージメントシステム(PTM)へ駆動力を伝えるために使用されます。プラグインハイブリッドドライブは、パナメーラの新しいトップモデルを3.4秒で100km/hに到達させます(パナメーラ ターボS E-ハイブリッド エグゼクティブ:3.5秒)。このグランツーリスモの最高速度は310km/hです。

水冷式リチウムイオンバッテリー

電気モーターは、エネルギー容量14.1kWhの水冷式リチウムイオンバッテリーから電力を供給されます。リアに搭載される高電圧バッテリーは、230V/10A電源から6時間以内にフル充電されます。標準装備の3.6kWチャージャーの代わりにオプションの7.2kWオンボードチャージャーと230V/32A電源を使用すれば、わずか2.4時間でバッテリーがフル充電されます。また、ポルシェ・コミュニケーション・マネージメントシステム(PCM)やポルシェ コネクト アプリ(スマートフォンとApple® Watch用)を介してタイマーで充電を開始することもできます。さらに、パナメーラ ターボS E-ハイブリッドには、充電中でもパワーグリッドからのエネルギーで車内の冷暖房を行うための補助エアコンが備わります。

「E-パワー」モードで発進、エネルギー効率性評価は「A+」

パナメーラ ターボS E-ハイブリッドは、標準仕様として「E-パワー」モードで発進します。この4ドアスポーツカーは、最大50kmまでゼロエミッション走行を行います。アクセルペダルに対する踏力が一定の値を超えるか、バッテリーの充電レベルが最低値を下回ると、パナメーラは「ハイブリッドオート」モードに切り替わり、この時点から両方の駆動システムのパワーを利用できるようになります。プラグインハイブリッドモデル用の新ヨーロッパ走行サイクル(NEDC)に基づく燃料消費量は、ハイオクガソリンを使用して2.9リッター/100km(CO₂排出量66g/km)、電力消費量は16.2kW/h/100kmです。ポルシェパナメーラ ターボS E-ハイブリッドが、ドイツのエネルギー効率性評価でトップの「A+」を獲得したという事実は、この車がどれほど効率的にエネルギーを運動に変換するのかを証明しています。

「ハイブリッドオート」モードは地形データとナビゲーションを用いてエネルギーを節約

ステアリングホイールに内蔵されたモードスイッチを含むスポーツクロノパッケージは、パナメーラ ターボS E-ハイブリッドの標準装備の一部です。モードスイッチとポルシェ・コミュニケーション・マネージメントシステムは、様々なドライビングモードを作動させるために使用されます。これらのモードは、スポーツクロノパッケージを装着した他のパナメーラモデルと同じく「スポーツ」モードと「スポーツ・プラス」モードを含みます。ハイブリッド専用モードは、「E-パワー」、「E-ホールド」、および「E-チャージ」です。

E-パワー 「E-パワー」モードでは、パナメーラ ターボS E-ハイブリッドは、最大50kmの距離を電気駆動のみでゼロエミッション走行することができます。

ハイブリッドオート 「ハイブリッドオート」モードは、完全に新開発されました。このモードが選択されると、パナメーラは最大の効率性を得るために駆動システムの切り替えと組み合わせを自動的に行います。

E-ホールド 「E-ホールド」モードでは、ドライバーは意識的に現在の充電状態を維持することができます。これにより、たとえば目的地が環境保護区域である場合に、「E-パワー」モード、すなわち「ゼロエミッション」モードに切り替えることが可能になります。

E-チャージ 「E-チャージ」モードでは、バッテリーは8気筒エンジンによって充電されます。これを行うために、ガソリンエンジンは実際の走行に必要とされるよりも多くのパワーを発生します。

スポーツ/スポーツ・プラス 「スポーツ」モードと「スポーツ・プラス」モードでは、最高水準の走行性能を使用することができます。これらのモードでは、V8ツインターボエンジンが連続的に作動します。「スポーツ」モードでは、バッテリーの最低レベルの充電が常に維持され、必要なときにE-ブーストの十分な予備容量を保証します。「スポーツ・プラス」モードは、最高のパフォーマンスを求めするために使用され、パナメーラ ターボS E-ハイブリッドを最高速度に到達させることができます。さらにこのモードは、バッテリーをできる限り素早く充電して最高のパフォーマンスを約束します。

駆動システム

電気モーターとV8ツインターボエンジンの技術的詳細

電気モーターは発進時から400N・mのトルクを発生

新しいポルシェは、パナメーラ ターボのV8ガソリンエンジンと組み合わせられる電気モーターから動力を供給されます。電気モーターは、100kW(136PS)を2,800rpmで発生し、400N・mの最大トルクを2,300rpm以下の回転域でもたらしめます。電気モーターは、最高回転数に極めて素早く到達するので、ドライバーがアクセルペダル(すなわち電力ペダル)を踏むのとほぼ同時にこのような高水準のパワーと最大トルクを利用することができます。

排気量4.0リッター、最大トルク770N・mのV8ツインターボエンジン

パナメーラ ターボS E-ハイブリッドに搭載される8気筒ツインターボエンジンは、新たに設計されたエンジンです。コンパクトで比較的軽量のデザインであり、404kW(550PS)の最高出力を5,750~6,000rpmで発生し、770N・mの最大トルクを1,960~4,500rpmで生み出します。構造的に言うと、この8気筒ツインターボは、90度のバンク角を持つ縦置きV型エンジンです。カムシャフトのタイミングを50度まで調整可能な4本の可変吸排気カムシャフトコントロールは、チェーンによって駆動されます。4バルブエンジンの総排気量は3,996ccで、137.5PS/リッターという傑出したリッターあたり出力を生み出します。V8直噴エンジンの最大の技術的特徴は、2基のターボチャージャーをVバンクの内側に収めたセンターターボレイアウトと、燃焼室中央に配置されたインジェクターです。その他の特徴としては、サーキット走行に対応した潤滑システム(極限の前後Gと横Gを補正するようにレイアウトを設計)と、摩耗をほぼゼロに抑えたシリンダーライニングのコーティングなどがあります。

最大過給圧2.0barの2基のツインスクロールターボチャージャー

V8ガソリンエンジンは、あらゆる回転域と出力域で極めて素早く吹け上がります。低回転域であっても、この8気筒マシンはトルクを生み出します。こうした運転特性を実現している要因のひとつが、センターターボレイアウトの2基のターボチャージャーです。2基のツインスクロールターボチャージャーは、圧縮された空気をV8の燃焼室に供給します。反対方向に回る2基のタービンは、低回転域であっても高トルクをもたらします。ターボチャージャーの最大過給圧は2.0barです。排出ガスによって駆動されるコンプレッサーは、各ターボチャージャーで吸気を圧縮します。この処理空気は、エンジンレスポンスを最適化するためにデュアルブランチシステムを通して導かれます。エンジンの外側へ送られた空気は、V8の前

方に設けられた左右のインタークーラーを通過した後、スロットルバルブを経由して左右のシリンダーバンクに導かれます。インタークーラーは、圧縮中に上昇した処理空気の温度を大幅に下げます。これによって空気の密度が高まることで、気筒内の酸素量が増加し、エンジンの総合的な効率が向上します。燃料は、燃焼室の中央に配置された高圧インジェクションバルブを備えるインジェクターによって噴射されます。触媒コンバーターを素早く加熱し、暖機時間を短縮し、エンジンが作動温度で運転中の噴射プロセスを最適化するために、ポルシェはエンジン始動時に実行される専用の噴射プログラムを作成しました。各シリンダーバンクには、最大噴射圧250barの高圧ポンプが備わります。

Vバンク内に配置された触媒コンバーターによる排出ガス後処理

V8エンジンには、プライマリー触媒コンバーターとメイン触媒コンバーター、ならびにフロントサイレンサーとリアサイレンサーを備えるデュアルブランチエグゾーストシステムが装備されています。8気筒エンジンは、センターターボレイアウトと同様に、触媒コンバーターをVバンクの内側に配置するように設計されています。触媒コンバーターとエンジンが接近したこの構成によって、エミッションコントロールシステムは最適な作動温度に素早く達することができます。さらに、エンジン始動時にターボチャージャーのウエストゲートバルブが開くことで触媒コンバーターの加熱が促進されます。

コネクティビティとインテリアコンセプト

ハイブリッド専用ディスプレイを備えたポルシェ・アドバンストコックピット

第2世代のポルシェ パナメーラの大きなハイライトのひとつが、独自の表示／操作コンセプトで、タッチパネルと個々に設定可能なディスプレイを備えた、標準装備のポルシェ・アドバンストコックピットという形で具体化されています。インタラクティブなコックピットを形作るのが、2つの7インチディスプレイです。パナメーラ ターボS E-ハイブリッドは、アシッドグリーンのインジケーターと「turbo S」ロゴを備える独自のハイブリッド走行用パワーメータによって、モデルラインの他の車と区別されます。このパワーメータは、現在使用されている電気エネルギー量や、エネルギー回生を通じて回収されているエネルギー量などのデータを提供します。

センターコンソールの12.3インチタッチスクリーンは、PCMの制御と表示を担う中心的な役割を果たし、ドライバーはここを通じて様々な項目のハイブリッド専用情報にアクセスすることができます。ブーストアシスタントとハイブリッドアシスタントは、いずれも実用的かつ有益です。ブーストアシスタントディスプレイは、ブーストに利用可能なエネルギーを表示し、ハイブリッドアシスタントは、電動走行の制御に関する様々な情報をビジュアルに提供します。

他の「ポルシェ E-パフォーマンス」の特徴のひとつが、標準装備のスポーツクロノパッケージです。これには、ステアリングホイールに内蔵され、4種類のドライビングモードを作動させるために使用するモードスイッチが含まれます。その中には、スポーツクロノパッケージを装備する他のパナメーラモデルの場合と同様に、よく知られた「スポーツ」モード、「スポーツ・プラス」モード、および最大限のパフォーマンスを引き出すための「スポーツレスポンススイッチ」があります。これらに「E-パワー」と「ハイブリッドオート」の2つのハイブリッド専用モードが加わっています。「E-ホールド」および「E-チャージ」の2つの追加モードは、ポルシェ・コミュニケーション・マネージメントシステム (PCM) から操作できます。(ハイブリッド専用モードの詳細な説明については、「新たな水準のハイブリッドパフォーマンス」の章をご覧ください。)

ポルシェ・アドバンストコックピット - デジタル式の表示および操作エレメント

ポルシェ・アドバンストコックピットは、パナメーラに標準装備されています。アナログのインジケータは、ひとつの例外を除きおおむね高解像度ディスプレイに置き換えられました。ポルシェ356に敬意を表してデザインされたアナログのレブカウンターは、そのまま残ります。ドライバーは、エルゴノミクスに基づいた低いシートポジションから、スポーティなフロントフェンダーとパワードームだけではなく、視線上に設置された2つの7インチディスプレイの眺めを楽しむことができます。それぞれのディスプレイには、通常、2つの丸型メータが表示されています。アナログレブカウンターは、パワーメータを内蔵し、2つのディスプレイの間に設置されます。ポルシェにおける慣習として、速度は、アナログレブカウンター内にもデジタル表示されます。レブカウンターの左には、バーチャルレブカウンターがあり、その中央にアシストシステムやその他のハイブリッド専用情報が鮮明に表示されます。このメータは「スピード&アシスト」と呼ばれます。レブカウンターとパワーメータの右には「カー&インフォ」ディスプレイがあり、ここで車両設定の変更と確認を行ったり、オンボードコンピュータの情報を見ることができます。ドライバーは、「スピード&アシスト」ディスプレイと「カー&インフォ」ディスプレイの横にある小さな2つの丸型メータの設定を、所定のオプションの中から選んで個々に変えることができます。システム全体は、マルチファンクションステアリングホイールのスイッチで操作されます。

ポルシェ・コミュニケーションマネージメントシステム (PCM)

ドライバーと助手席乗員の間スイッチパネルの上に位置するのが、ポルシェ・コミュニケーションマネージメントシステム(PCM)の12.3インチタッチスクリーンディスプレイです。ドライバーは、ホーム画面のサブエリアをタイル形のウインドウでカスタマイズすることができます。ディスプレイは、マルチタッチジェスチャーを使って操作します。スマートフォンやタブレットと同様、ドライバーは、画面上の地図などを2本の指でどの方向にも回転させることができます。ディスプレイは手書き入力も認識するので、画面に希望の目的地を簡単に手書きすることができます。

手をPCMのディスプレイに近づけると、近接センサーがこの動きを検知して、状況に応じたさらなる機能を提供するサブメニューをディスプレイの左側に開きます。メニューが複数のページにまたがる場合は、スマートフォンと同様にスワイプ操作でメニューをスクロールすることができます。ディスプレイの右側では、タイル、すなわちウィジェットを開いたり、それらを自由にレイアウトすることができます。ウィジェットは、ドライバーの好みや状況に応じて、ナビゲーション情報、現在のプレイリスト、またはクライメ

ートコントロールの情報などを表示するために使用できます。このようにドライバー自身の要求に合わせてウィジェットを追加することで、PCMのメインメニューをカスタマイズすることができます。さらにPCMは、CD/DVDオートチェンジャー、TVチューナー、デジタルラジオ、Burmester® サウンドシステム(ターボS E-ハイブリッドにはBOSE® サウンドシステムが標準装備)、およびポルシェ・リアシートエンターテインメントを追加して拡張することも可能です。

ポルシェ・コネクでハイブリッド機能を操作

PCMに標準で組み込まれている機能のひとつにポルシェ・コネク・プラスがあります。オンライン世界へのこのインターフェースは、Apple® CarPlayとポルシェ・カーコネクアプリ(PCC)を含んでいます。パナメーラハイブリッドモデルのドライバーは、スマートフォンやApple® Watchのアプリを使ってハイブリッド専用のカーコネクサービスにアクセスできます。その中には、バッテリー&充電マネジメントやハイブリッド機能の遠隔操作などがあります。バッテリー&充電マネジメント機能は、たとえば電気駆動のみによる航続距離や総航続距離などの車両の充電状態、ハイブリッドバッテリーの現在の充電レベル、残りの充電時間などに関する重要な情報をドライバーが見ることを可能にします。リモートコントロール機能は、充電プロセスの開始やできるだけ遅い充電完了時刻の設定を含むハイブリッド専用機能をドライバーが操作できるようにします。さらにユーザーは、アプリを使って標準装備のクライメートコントロールシステムを調節し、エンジン始動前に室内の冷房または暖房を行うこともできます。

また、スマートフォンやApple® Watchのアプリを使えば、セーフティサービス(ロードサイドアシスタンス、オートマチックエマージェンシーコール)、セキュリティサービス、車両統計、車両の状態、カーファイnder、スピードフェンシング、ジオフェンシング、ポルシェ・ビークルトラッキングシステム(PVTS Plus)などのPCC機能を制御することもできます。スピードフェンシングでは、車が第三者によって運転されている最中に設定速度を超えると、アプリがドライバーに警告します。ジオフェンシングは、パナメーラが特定のエリアを離れるとユーザーに知らせます。PVTS Plusは、位置の特定と追跡の機能を備える盗難検知システムです。

PCMには、SIMカードリーダー付LTE電話モジュール、無線インターネットアクセス(Wi-Fiホットスポット)、リアルタイム交通情報、Google® Earth、およびGoogle® Street Viewも含まれます。ポルシェ・コネクアプリ(PCMコネク)は、さらに高度なオンラインインタラクションを提供します。このアプリは、標準装備のポルシェ・コネク・プラスパッケージの一部でもあります。PCMコネクにより、ドライバーは、車に乗り込む前にスマートフォンやGoogleを使って希望の目的地を検索し、保存した目的地を車内のPCMに転送することができます。カレンダーに入力されている予定や住所を含む連絡先をPCMで表示／更新

し、目的地として設定することができます。もうひとつの革新的な新機能として、GPSデータにリンクしたスマートフォンの写真をナビゲーションの目的地として使うことができるという機能があります。さらにパナメーラは、PCMコネクトを使ってほぼ無限といえるインターネットラジオ局やオンラインストリーミングサービスにアクセスできます。曲は、Napsterやradio.netなどのサービスを介してストリーミングされます。

コネクト・プラスは、「駐車場」（駐車場の検索と空き状況の確認）、「燃料価格」（ガソリンスタンの検索と価格の確認）、「メッセージの口述」（ボイスコントロールを使ったショートメッセージの口述と送信）、「Twitter」（ツイートの読み上げ、情報の表示）、「鉄道情報」、「フライト情報」、「天気」（現在地または目的地）、「イベント情報」、「メッセージ」などのアプリも提供します。いずれのアプリも、PCMのメニュー項目として簡単に起動することができます。

ダイレクトタッチコントロールを使ったセンターコンソール機能の構成

PCMエリアに備わる高解像度のハイエンドディスプレイは、シフトバイワイヤ式PDKセレクターレバーゲートを備えるセンターコンソールのブラックパネルコンセプトと調和しています。センターコンソールでは、タッチセンサー式スイッチを備えるプレミアムなガラスルックのデザインで、車両とクライメートコントロールの様々な機能が直観的に操作できるようになっています。センターエアベントのスラットもタッチセンサー式スライダで電子制御されます。パナメーラ ターボS E-ハイブリッド エグゼクティブでは、後席乗員は、4ゾーンオートマチッククライメートコントロールシステムの恩恵を受けることができます。標準装備されるこのシステムは、クライメートコントロール機能とインフォテイメント機能専用の7インチブラックパネルから操作できます。

710Wと1,465Wの出力を備える2つのサウンドシステム

パナメーラ ターボS E-ハイブリッドには、BOSE® サウンドシステムが標準装備されます。このシステムは、パッシブサブウーファーを含む14個のスピーカーと14アンプチャンネルを備え、合計出力は710Wです。ポルシェは、トップモデルに設定されるオプションとして、直接制御される20個のスピーカーと1個のアクティブサブウーファーを備えるパワフルな1,455WのBurmester® 社製3Dハイエンドサラウンドサウンドシステムを提供します。パナメーラの室内でスマートフォンやタブレットのプレイリストをサウンドシステムのメディアソースとして常に使っている場合でも、追加された2つのUSB充電ポートとリアの12V電源ソケットにより、これらの機器を完全に充電された状態に維持することができます。

ポルシェ・リアシートエンターテイメント

オプションのポルシェ・リアシートエンターテイメントの中心は、2個の10インチタッチスクリーンです。反射防止加工が施されたこれらの高解像度スクリーン(1,920 × 1,200ピクセル)は、フロントシートのバックレストに装着され、パナメーラの車外でもタブレットとして使うことができます。リアシートエンターテイメントのサウンドは、タッチスクリーンに内蔵されたスピーカー、車両のサウンドシステム、またはポルシェBluetooth® ヘッドフォンから再生されます。幅広い種類のデジタルソースが使用可能で、SDカード、ジュークボックス、CD/DVDドライブ、およびUSBメモリーを介してPCMメディアにアクセスできます。後席乗員も、ラジオを操作することができます。車両データに加えて、現在のナビゲーションルートと関連する補足情報を表示させることもできます。ポルシェ・リアシートエンターテイメントは、PCMのナビゲーションシステムに対する目的地の入力に使用することもできます。後席乗員は、Google® Play Storeの全てのコンテンツにアクセスすることができるので、提供されるエンターテイメントの範囲が大幅に広がります。ポルシェ・リアシートエンターテイメントは、タッチスクリーンまたはPCMから操作することができます。ポルシェ・リアシートエンターテイメントは、Android OSを使用しています。32ギガバイトの内蔵フラッシュメモリーは、マイクロSDカードを使って拡張することができます。タッチスクリーンは、ビデオ通話とチャットを行うためのカメラも備えます。

4人のための広い空間を備えるスポーティなツーリングカー

ニューポルシェ パナメーラ ターボS E-ハイブリッドは、4名が快適に移動するための広い空間を提供します。リアには、ショーファードリブンとしても使用できるほどの十分なスペースがあります。これは特にホイールベースが150mm延長されたエグゼクティブモデルに当てはまります。いずれのバージョンも40:20:40の分割可倒式リアシートを備えます。ラゲッジコンパートメント容量は、シートの折り畳み方によって405リッターから1,245リッター(エグゼクティブ:1,395リッター)まで変化します。

アシストシステムと快適システム

ネットワーク化されたインテリジェンス：ナイトビジョンアシスタントとポルシェ・イノドライブ

パナメーラ ターボS E-ハイブリッドには、走行体験をより快適で便利にするだけでなく、より安全なものにするために多くのアシストシステムが標準装備またはオプションとして用意されています。その中に含まれるのが、ポルシェ・イノドライブとナイトビジョンアシスタントです。ナイトビジョンアシスタントは、熱探知カメラを使用して最大300m先までの人や大型動物を検知し、ドライバーに対してカラー表示で警告を出します。アダプティブクルーズコントロールを含む新しいポルシェ・イノドライブは、もうひとつの独創的な装備です。3D高解像度ナビゲーションデータに基づき、次の3kmの走行区間について最適な加減速の値、ギアを選択、およびコースティングの設定を計算し、適用します。この電子制御コパイロットは、その際にコーナー、勾配、および制限速度を自動的に考慮します。他の車両と現在の制限速度は、レーダーとビデオセンサーによって検知され、制御プロセスに加えられます。

ナイトビジョンアシスタントは危険な状況を事前に緩和

ナイトビジョンアシスタントが装備されたパナメーラでは、フロントの熱探知カメラが、あらゆる生物の発する赤外線を検知します。コントロールユニットが、温度差画像を判定し、その情報をポルシェ・アドバンスドコックピットの右側のディスプレイ（「カー&インフォ」）に提供します。最初、画像はモノクロで表示されていますが、熱探知カメラが人や大型動物を検知すると同時に、その部分がイエローではっきりと示されます。ドライバーは、こうした色の変化を事前警告として直感的に捉えることができます。危険な状況であると思われる場合、画像がイエローからレッドに変わります。それと同時に、「スピード&アシスト」メータ（レブカウンターの左側）が、「歩行者」または「動物警告」シンボルを表示します。システムは、人と動物を区別することができます。特に野生動物は予想外の動きをすることがあるので、これは重要な機能です。さらにシステムは警告音も発します。ナイトビジョンアシスタントを備えるパナメーラには、オプションのLEDマトリックスヘッドライト（PDLS Plusを含む）も装着されます。歩行者がハイビーム（メインビーム機能）の照射範囲内にいる場合、このヘッドライトが素早く3回点滅することで、ドライバーはより容易に歩行者に気付き、ブレーキングや回避操作を行うことができます。さらに、できるだけ素早く減速できるように、ドライバーに気付かれることなくブレーキの作動準備が事前に整えられます。

ナイトビジョンアシスタントは、250km/hまでの速度で作動します。市街地では、リードにつながれて歩いている犬に反応しないよう、「動物警告」は自動的に解除されます。ナイトビジョンアシスタントは、駐車して間もないモーターサイクルのエンジンなど、人工的な熱源に対しては反応しません。

アダプティブクルーズコントロールを含むポルシェ・イノドライブが路上の出来事を予測

アダプティブクルーズコントロールを含むポルシェ・イノドライブは、極めて独創的な機能です。車は、ナビゲーションデータに基づいて、次の3kmの最適な加減速の値を計算し、その値をエンジン、8速PDK、およびブレーキシステムに適用します。この電子制御コパイロットは、その際にコーナー、勾配、および制限速度を考慮に入れます。現在の交通状況は、レーダーとビデオセンサーによって測定され、それに合わせて制御プロセスが調整されます。ポルシェの社内エンジニアによって開発された革新的なシステムであるポルシェ・イノドライブは、パナメーラターボS E-ハイブリッドの効率性を大幅に改善し、予測されるナビゲーションデータを用いることで、コースティング、オーバーランカットオフ、およびブレーキング介入などの機能を今まで以上に効率的に制御できるようにします。

さらにポルシェ・イノドライブは、アダプティブクルーズコントロールの使用時に、快適性とダイナミクスに関して明らかなメリットをもたらします。システムは、回り道をも認識し、前方の状況に合わせて車速を自動的に調整します。「スポーツ」モードが作動していると、ポルシェ・イノドライブは、よりダイナミックなマップに切り替えます。従来からの車間距離制御システムと同様、レーダービデオセンサーも先行車との距離をモニターするため、その結果に基づいて車間距離の調整が連続的に行われます。

アシストシステムの範囲は、ポルシェのドライビングプレジャーを制限してしまう交通渋滞にまで適用範囲が拡大されました。交通渋滞のアシストシステムは、車速が60km/hまでに制限される混雑した交通状況下で、ドライバーが車両を前後左右に制御するのをサポートします。ACCの作動中に渋滞の列を検知し、電子機械式ステアリングシステムを介してステアリングアシストが作動すると、交通渋滞のアシストシステムが作動します。この機能はいつでも容易に無効にすることができます。

アダプティブクルーズコントロールが高速道路での快適性と安全性を高める

最新のパナメーラが昨年の半ばに発売されたとき、アダプティブクルーズコントロールの機能と性能が大幅に改善されました。第2世代のパナメーラは、1台のレーダーセンサー（通常は車両のフロント中央に設置）の代わりに、バンパーの左右に内蔵された2台のセンサーを使用します。さらにアダプティブ

クルーズコントロールは、カメラセンサーからの情報も考慮に入れます。こうした改良の結果、先行車との距離をモニターする際の信頼性が高まったほか、隣の車線から割り込んでくる車両をより早く検知できるようになりました。システムは必要に応じて停止するまでブレーキをかけ、ストップ&ゴー機能がパナメーラを自動的に再発進させます。3秒以上停車した場合は、アクセルペダルを軽く踏むかコントロールレバーのスイッチを操作すればエンジンが再始動します。自動的に車間距離を制御するシステムは、30~210km/hの速度で作動します。システムは、燃費をさらに低減するために可能な限りコースティング(エンジンアイドリング、クラッチ解除)を使用します。

レーンチェンジアシストで安全性が大幅に向上

レーンチェンジアシストは、リアバンパーに内蔵された2台のレーダーセンサーを使用して、隣の車線で後方から接近してくる車両の距離と速度を検知します。両方の値が危険な範囲にあると評価された場合、該当する側のドアミラーに視覚的警告が現れるため、死角にある車をドライバーが見逃すリスクは大幅に低減します。システムは、70m以内の距離の車両を検知し、15~250km/hの速度で作動することができます。この速度に満たない場合は、リアのターンアシストが接近してくる車両のドライバーに対し、旋回時に警告を出すことができます。

道路標識認識機能付レーンキープアシストレーンキープアシストは、路上での最も大きな事故原因のひとつとなっている、意図しない車線逸脱をできるだけ防止できるように設計されています。パナメーラに搭載されるシステムは、フロントウインドウに組み込まれたカメラを使って車線のマーキングを検知し、65~250km/hの速度で作動します。ドライバーがインジケーターを作動させずに車線を外れると、新しい電気機械式ステアリングシステムが自動的に車両の動きを反対方向に操舵します。必要であれば、警告音とメータパネルへの警告表示を作動させるようにPCMで設定することもできます。レーンキープアシストと同じカメラを使用する道路標識認識機能も、システムの一部です。システムはカメラが道路標識を検知すると、デジタルマップ内に保存されている各種の標識と比較したうえで、制限速度や追い越し禁止などの情報を表示します。ニューパナメーラでは、交通標識の検知機能がコーナリング情報にまで幅広く対応しています。急カーブの情報をあらかじめドライバーに知らせることができるため利便性に優れた機能です。

シャシーとシャシーシステム

パフォーマンスと快適性の幅広いバランス

パナメーラのシャシーは、総合コンセプトに合わせてラグジュアリーサルーンの乗り心地と真のスポーツカーのパフォーマンスを兼ね備えています。この基本的なシャシーレイアウトを補って完全なものにしているのが、快適性とパフォーマンスを最大限に高めるために設計された豊富な革新的システムです。こうしたアシストシステムと利便性向上システムのほぼ全てが、ニューパナメーラ ターボS E-ハイブリッドにおいては標準装備の一部です。その中には、ポルシェ・アクティブサスペンション・マネージメントシステム (PASM) を含むアダプティブエアサスペンション、ポルシェ・トルク・ベクトリングプラス (PTV Plus) を含むアクティブ制御のロール抑制システムであるポルシェ・ダイナミックシャシー・コントロール・スポーツ (PDCC Sport)、およびポルシェ・セラミックコンポジット・ブレーキ (PCCB) が含まれます。ホイールベースが延長されたパナメーラ ターボS E-ハイブリッド エグゼクティブでは、リアアクスルステアが標準装備されます。ポルシェは、リアアクスルステアを組み込むことで、スポーツカーのステアリング精度とハンドリング特性をラグジュアリーサルーンクラスに持ち込みます。パナメーラの全モデルでは、統合されたポルシェ4Dシャシーコントロールシステムが、全てのシャシーシステムをリアルタイムに分析して同期させ、ハンドリングの最適化に使われるデータを提供します。

調和のとれたアクスルコンセプトがベース

ポルシェは、パナメーラのフロントに、鍛造アルミニウム製ウィッシュボーンと中空アルミニウム製軽量ピボットベアリングを備えるダブルウィッシュボーンサスペンションを装着しています。下部ウィッシュボーンの油圧減衰式エラストマーベアリングは、快適性を高めるように設計されています。ピボットベアリングへのスタビライザーリンクによって、快適性を最適化したシングルチューブダンパーの使用が可能になります。電気機械式ステアリングと組み合わせられる高強度アルミニウム製サブフレームは、ダイナミックなパフォーマンスと俊敏なハンドリングを保証します。リアアクスルには、鍛造アルミニウム製上部ウィッシュボーンと中空アルミニウム製下部ウィッシュボーンを備える軽量マルチリンクサスペンションが装着されます。ここでも、アクスルとエラストマーの動きを最適化することで、俊敏性、精確さ、快適性が向上しています。

パナメーラ ターボS E-ハイブリッド エクスクルーシブに標準装備されるリアアクスルステア

パナメーラ ターボS E-ハイブリッド エクスクルーシブには、リアアクスルステアが標準装備されます(ショートホイールベースモデルの場合はオプションです)。50km/hまでの低速域では、走行速度に応じてフロントホイールと反対の方向にリアホイールを最大2.8度の操舵角まで操舵します。これはホイールベースを短くした場合と同様の効果をもたらします。これによりダイナミックなコーナリングが実現するとともに、狭い場所での駐車操作が容易になります。約50km/hを超える速度域では、リアホイールはフロントホイールと同じ方向に操舵され、操舵角は走行速度に応じて変化します。ここでリアアクスルステアはホイールベースを延長するのと同じ効果をもたらし、高速道路で車線変更を行う際などに走行安定性を高めます。リアアクスルステアは、ドライビングダイナミクスを最適化するアクティブセーフティシステムであると同時に、低速域での必要な操舵角を少なくすることによって快適性も高めます。さらにリアアクスルステアを装着することで、フロントアクスルのステアリングレシオがよりダイレクトなものになり、極めてスポーティなステアリング体験がもたらされます。

統合されたポルシェ4Dシャシーコントロール

ポルシェ4Dシャシーコントロールは、集中制御のネットワークシステムです。現在の走行状況を3次元(前後G、横G、垂直G)で解析し、その結果を用いて走行状態に関する最適な情報を計算し、その情報を全てのシャシーシステムで一様かつリアルタイムに、すなわちシャシー制御における第4の次元で利用できるようにします。この結果、差し迫った走行状況に対して、各システムが一体となって反応することができます。たとえば、コーナーにダイナミックなステアリング操作で進入する場合、電子制御ダンパーシステムのPASM、アダプティブエアサスペンション、リアアクスルステア、PTV Plus、およびPDCC Sportが協調して働くことで、最適なステアリング挙動、傑出した俊敏性と安定性が保証されます。コーナーに向けてステアリングを切り始めると、ポルシェ4Dシャシーコントロールが直ちにシャシーシステムへ信号を送ります。これにより、各システムは、即座に反応して最大限のコーナリング性能を保証することができます。

ポルシェ・アクティブサスペンション・マネージメントシステム (PASM)

標準装備のポルシェ・アクティブサスペンション・マネージメントシステム(PASM)は、電子制御ダンパーシステムです。収集した情報を用いて各ホイールのサスペンションを調節することにより、路面状況とドライビングスタイルに対応します。最新のパナメーラに装着されるダンパーは、応答性も高められ、快

適性とスポーツ性のバランスが細かく調整されています。ドライバーは、「ノーマル」、「スポーツ」、「スポーツ・プラス」の3種類のモードから選択することができます。PASMが利用するセンサーは、急加速時、制動時、高速コーナリング時、または荒れた路面を走行する際の車両の動きを検知します。PASMは、収集した情報をポルシェ4Dシャシーコントロールに送信します。4Dシャシーコントロールは、現在の走行条件を判定し、作動中のモードに応じてPASMのダンパーの固さ、ならびにアダプティブエアサスペンションのダンピング特性およびスプリングレートを設定します。4Dシャシーコントロールは、他の電子制御シャシーシステムの制御パラメーターも調節します。その結果、車両の安定性、パフォーマンス、快適性が高まります。

PASMを含むアダプティブエアサスペンション

パナメーラ ターボS E-ハイブリッドには、アダプティブ3チャンバーエアサスペンションシステムが標準装備されます。このアダプティブエアサスペンションは、とりわけ快適性の面で新たなベンチマークを打ち立てており、初代パナメーラのエアサスペンションに比べて大幅な改良がなされています。現在のシステムは、スプリングストラット1本あたりの可変エアチャンバーの数を3つにすることで空気量を約60%増加させているため、スプリングレートの変更範囲が大幅に拡大しています。加速時や制動時、またはロールを抑えるときなどには必要に応じてスプリングレートを瞬時に電子制御で変化させることができるため、シャシーは快適性を高めるために標準のスプリングレートをより柔らかめに設定することが可能です。

エアサスペンションには、よく知られたセルフレベルリング機能という利点があります。ノーマルレベルに加えて、リフトレベルとローレベルが用意されています。リフトレベルはシャシーを20mm持ち上げるので、地下駐車場への進入時などでフロントスポイラーの破損を防止するのに役立ちます。ローレベルでは、フロントアクスルが28mm、リアアクスルが20mm下がるため、高速走行時の完璧なロードホールディングを実現し、エアロダイナミクスを改善します。

アクティブ制御によるロール抑制システム：PTV Plusを含むPDCC Sport

ポルシェ・ダイナミックシャシー・コントロール・スポーツ(PDCC Sport)は、電気機械式スタビライザーの統合によってドライビングダイナミクスを最適化します。このシステムは油圧アクチュエーターを備えた従来のシステムよりもはるかに素早く反応し、スタビライザーを硬化してボディのロールを押さえます。ポルシェはパナメーラにおいてPDCC Sportにポルシェ・トルク・ベクトリングプラス(PTV Plus)を組み合わせます。電子制御リアディファレンシャルが駆動トルクを左右のリアホイールに可変配分する一方

で、ホイールごとにブレーキをかけてリアアクスルに追加のステアリングトルクを生み出します。その結果、操縦性がよりいっそう俊敏になります。さらにPTV Plusは、コーナー出口の加速時にディファレンシャルをロックすることでトラクションを体感できるほど向上させます。

エクステリア

ニューパナメーラのデザインはポルシェ911との架け橋

ニューパナメーラ ターボS E-ハイブリッドは、このモデルラインの第2世代をベースにしています。全長は5,049mm、全幅は1,937mm(ドアミラーを除く)、全高は1,427mm、ホイールベースは2,950mmです。パナメーラ ターボS E-ハイブリッド エグゼクティブは、ホイールベースが3,100mmになり、全長は5,199mm、全高は1,432mmです。いずれのボディバージョンにおいても、長い全長と全幅に比較的軽い車両重量を組み合わせることで、並外れてダイナミックな車両デザインが実現しています。ポルシェのデザイン責任者であるミハエル・マウアーと一緒に働いたチームは、このプロポーションを利用してサルーンクラスのスポーツカーであるパナメーラを開発しました。

張り出したフェンダーとスポーツカースタイルのパワードーム

フロント:パナメーラは、印象的なプロポーションを持つワイドなグランツーリスモです。その視覚的効果は、フロントのA形エアインテークによって増幅されます。同時に、ラジエーターの精密にデザインされたクロスバーは、車幅を強調します。矢形のボンネットは、バンパーにまで延びるパワードームの独特な輪郭によって、長く低い美意識を有しています。パナメーラ ターボS E-ハイブリッドのフラットなフロントのデザインは、そのコンパクトなプラグインハイブリッドドライブによって可能になりました。パワードームの左右には、最もよくわかるポルシェデザインの特徴のひとつである精密な輪郭のフェンダーがボンネットから続いています。4灯式ウエルカムホームライトを備え、3つのバージョンが用意されるLEDヘッドライトは、洗練された外観を生み出します。

カリスマ的なポルシェ フライラインを備えるルーフ

シルエット:ボディサイドは、そのダイナミックな傾斜するルーフラインによって、典型的なスポーツカーのシルエットを映し出します。リアでは、この傾斜するルーフは、ポルシェの全てのクーペに使われる独自のデザインの特徴であるカリスマ的なポルシェ フライラインへと続きます。ルーフのサイドに沿って伸びる2本の明確なラインは、車高を低く見せる効果を生み出します。独特なサイドウィンドウは連続したひとつの塊を形成し、ポルシェ911の見慣れたラインとの美的関連性を意図的に感じさせます。ドアとフェンダーは立体的な造形で、凹凸のある形状が自然光を利用して力強くうねる表面を生み出しま

す。フロントホイール後方のエアアウトレットは、デザインの不可欠な要素です。角のあるホイールアーチのエッジは、もうひとつのパワフルなデザインの特徴で、その下の21インチ軽合金製ホイール(パナメーラ ターボS E-ハイブリッドおよびエグゼクティブに標準装備)へと視線を導きます。

LEDライトストリップと4-wayリアスポイラー

車の後ろから見ると、パナメーラが普通のサルーンというよりも4ドアクーペであることが極めて明白になります。ルーフ、ルーフピラー、およびウインドウで構成されるグリーンハウスは、力強く広いショルダーに支えられています。これは、パナメーラが明らかにスポーツカーであることを示す特徴です。リアから見たときに、立体的なポルシェのレタリングと並んで最も際立つ特徴が、4灯式ブレーキライトを組み込んだ立体的なLEDテールライトです。左右のテールライトは、細長いLEDのストリップで結ばれています。これら全ての要素が一体となって、独自の見紛うことのないナイトデザインを形成します。標準装備のオートマチックテールゲートにシームレスに統合されているのが、ボディカラー同色塗装仕上げの可変リアスポイラーです。トップモデルの4-wayスポイラーは、上昇するときに分割することで表面積を増やします。リアエンドの下端に沿って装着されているのは、ディフューザーです。その両端には、エグゾーストシステムのブラシ仕上げステンレススチール製ツインテールパイプが組み込まれています。

標準装備

エアサスペンション、21インチホイール、セラミックブレーキを標準装備

4 E-ハイブリッドと同様に、パナメーラシリーズの2番目のプラグインハイブリッドモデルも、ポルシェ・アクティブサスペンション・マネージメントシステム (PASM) を組み込んだアダプティブ3チャンバーエアサスペンションとポルシェの4WDシステムであるポルシェ・トラクション・マネージメントシステム (PTM) を標準で装備します。パナメーラ ターボS E-ハイブリッドの拡張された標準装備には、ポルシェ・トルク・ベクトリングプラス (PTV Plus) を含むアクティブ制御のロール抑制システムであるポルシェ・ダイナミックシヤシー・コントロール・スポーツ (PDCC Sport)、911ターボ デザインの21インチ軽合金製ホイール、およびポルシェ・セラミックコンポジット・ブレーキ (PCCB) が含まれます。ニューパナメーラ ターボS E-ハイブリッドには、ホイールベースが150mm延長され、リアアクスルステアが標準装備されるエグゼクティブバージョンも用意されます。中国では、全長5,199mmのエグゼクティブモデルのみが販売されます。

ハイブリッド専用装備には、持ち運び用のバッグとウォールマウントが付属するポルシェ・ユニバーサルチャージャー、コントロールユニットと車両を接続するための車両ケーブル (2.5m)、2本の給電ケーブル (1本はコントロールユニットを家庭用コンセントに接続するため、もう1本は400Vの工業用コンセントをオペレーターコントロールユニットに接続するため) が含まれます。

標準で用意される豊富なカラーバリエーション

パナメーラのトップモデルの外観を特徴付けているのが、ブラシ仕上げステンレススチール製ツインテールパイプ、「アシッドグリーン」で縁取られたハイグロスシルバー仕上げのサイドの「e-hybrid」ロゴおよびテールゲートのモデル名ロゴ、「アシッドグリーン」のブレーキキャリパー、ポルシェ・ダイナミック・ライトシステム (PDLS) を含むLEDヘッドライト、ならびに自動展開式の可変4-wayリアスポイラーです。パナメーラ ターボS E-ハイブリッドは、スタンダードカラーの「ブラック」と「ホワイト」、またはメタリックカラーの「キャララホワイトメタリック」、「ジェットブラックメタリック」、「バルカノグレーメタリック」、「ロジウムシルバーメタリック」、「サファイアブルーメタリック」、「ナイトブルーメタリック」、「アゲートグレーメタリック」、「マホガニーメタリック」、「バーガンディレッドメタリック」、および「リストレットブラウンメタリック」で塗装することができます。スペシャルカラーとカスタム塗装仕上げもオプションでの選択が可能です

14-way電動シート、BOSE® サウンドシステム、フルレザーインテリア

車内の標準装備の範囲も拡大されています。パナメーラ ターボS E-ハイブリッドの標準装備としては、補助エアコン、14-way電動調節機能と拡張メモリー機能を内蔵したフロントコンフォートシート、フロントとリアのシートヒーター、レザーインテリア（「ブラック」、「サドルブラウン」、「アゲートグレー」、または「マルサラ」）、高さと前後位置を電動で調節できるマルチファンクションステアリングホイール、ダークウォールナット・インテリアパッケージ、アルカンターラ仕上げルーフライニング、アルカンターラ仕上げドアパネル、アルカンターラ仕上げサンバイザー、出力710WのBOSE® サウンドシステムなどがあります。

エグゼクティブモデルのために拡張されカスタマイズされた装備

パナメーラ ターボS E-ハイブリッド エグゼクティブには、さらに多くの装備が標準で備わります。外から見ると、エグゼクティブモデルは、小さいながらもエレガントな装飾によって見分けられます。両サイドには、ドアシルにシルバーのハイグロス仕上げのストリップが2本あり、フロントフェンダーのエアアウトレットトリムと完璧に調和しています。フロントセクションにも、エアインテークに同じくハイグロスシルバー仕上げのデコレイティブストリップが備わります。市場によっては、Dピラーにシルバーの「Executive」のレタリングがあしらわれます。パナメーラ ターボS E-ハイブリッド エグゼクティブには、アンビエントライトも標準装備されています。これにより車両のオーナーは、リアのライトにフォーカスした7種類のライティングコンセプトの中から選ぶことができます。

パナメーラ ターボS E-ハイブリッド エグゼクティブに標準装備されるパノラミックルーフシステム

パナメーラの全てのロングホイールベースモデルには、透明のパノラミックルーフシステムが標準装備されます。ルーフの前方部分は、チルトアップに加えて完全に開くことができます。透明のルーフは、内側のサンシェードで覆うこともできます。拡張された標準装備には、コンフォートヘッドレストを備える電動調節機能付リアコンフォートシートとリアサイドウインドウ用ロールアップサンシェードも含まれます。さらに、リアビューカメラを含むパークアシストシステムとソフトクローズドア（自動クローズ機構付）も装備されます。スマートフォンスロット（インダクティブアンテナインターフェース）を追加した、大型のセンターコンソールも、エグゼクティブモデル用に特別にデザインされました。これはオプションとして選択が可能です。このセンターコンソールには、使用しないときに格納できる航空機スタイルの折り畳みテーブルを装着することもできます。

オプション装備

ニューポルシェ パナメーラは個性のためにデザインされている

2台の全く同じパナメーラ ターボS E-ハイブリッドが会う可能性は、ほとんどありません。それは主に2つの理由からです。第一に、ポルシェはパナメーラのために12種類のスタンダードボディカラー、10種類のインテリアカラーとレザーの組み合わせ、様々な特別オプションなど、豊富な選択肢を提供しています。第二に、カーコンフィギュレーターで利用可能なオプションに加え、ポルシェ エクスクルーシブによってパナメーラをオーナーの要求に合わせてカスタマイズすることもできます。これほどの個性化を可能にしているのが、ポルシェの革新的な生産コンセプトです。このコンセプトは、最先端のデジタル化および自動化された生産プロセスに、カスタム製造を組み合わせています。たとえば、カーコンフィギュレーターに用意されているカラー以外にも、ポルシェ エクスクルーシブによって考えられるほぼ全てのカラーでパナメーラ ターボS E-ハイブリッドを仕上げるすることができます。下の概要は、カーコンフィギュレーターの中でパナメーラに用意されている主なオプションを説明します(アシストシステムについては別の章を参照してください)：

レザーおよびインテリアフィニッシュ

5種類のインテリアパッケージ

パナメーラのインテリアを個性化するためのオプションは、ほぼ無限にあります。個性化の第一歩は、「ボディカラー同色塗装インテリアパッケージ」、「レザーインテリアパッケージ」、「カーボン・インテリアパッケージ」、「アルミニウム・インテリアパッケージ」、「ウッド・インテリアパッケージ」の5種類のパッケージの中からひとつを選ぶことです。選んだオプションに応じて、スイッチパネルおよびドアのデコレーティブパネル、ならびにセンターコンソールのデコレーティブエレメントが、ボディカラー同色塗装、レザー、カーボン、アルミニウム、またはウッドで仕上げられます。用意されたウッド仕上げには、「ダークウォールナット」(パナメーラ ターボS E-ハイブリッドに標準装備)、「グレーバーチ」、「アンバー」、または「パルダオ」があります。

カーボンまたはウッド仕上げのステアリングホイール

マルチファンクションステアリングホイールも、レザー／カーボンまたはレザー／ウッドで仕上げることができ、いずれの場合にもステアリングホイールヒーターが備わります。

ドライビングダイナミクス

スポーツエグゾーストシステム

改良された独自のデザインのリアサイレンサーにブラシ仕上げステンレススチール製またはハイグロスブラック仕上げのスポーツテールパイプが備わります。

エクステリア

ブラック仕上げサイドウインドウトリム

スポーツデザインパッケージ

個性的なデザインのボディカラー同色塗装仕上げのスポーツデザイン・フロントエンド(ブラックのエアインテークとCブレード付)、スポーツデザイン・サイドスカート、スポーツデザイン・リアエプロン(ブラックのリアディフューザー付)。ブラックエレメントは、マットフィニッシュまたはハイグロスフィニッシュでオーダーすることができます;スポーツデザイン・サイドスカートは単体でも購入できます。

電動収納式トパーシステム

ボールジョイントを電動で展開/収納することができます。ブレーキ付トレーラーの場合、最大牽引重量は2,200kg。

照明と視認性

LEDマトリックスヘッドライト(PDLS Plusを含む)

ポルシェ・ダイナミック・ライトシステムプラス(PDLS Plus)を内蔵した新しいLEDマトリックスヘッドライトは、パナメーラをライティングテクノロジーの最先端に置くために設計されています。1個のLEDマトリックスヘッドライトは、全てのライティング機能に使われる合計109個のLEDを含みます。LEDマトリックスモジュールだけで84個の個別に制御可能なLED(ピクセル)が含まれており、レンズ、リフレクター、およびロービームと組み合わせてアダプティブハイビームとして使用することができます。ライトは、フロントウインドウに備わるカメラに接続されています。このカメラは先行車と対向車を検知し、他の道路利用者を眩惑することなく前方の路面を最大限に照らすようにハイビームの配光をインテリジェントに制御します。複雑なヘッドライトモジュールは、カメラのデータに頼るだけでなく、ナビゲーションのデータと車両情報も使用して84個のLEDを自動的に制御します。配光を制御するこのインテリジェントなシステムは、他の快適機能と安全機能を車両に統合することもできます。たとえば、システムは、ドライバー

を幻惑するかもしれない反射する道路標識をカメラを用いて検知し、そのような標識に向いているライトを選択的に消灯することで視界が損なわれないようにします。LEDマトリックスヘッドライトには、対向車のために新たな機能が加えられています。ヘッドライトは対向車への照射を弱めるだけでなく、ブースト機能を用いて自車の走行車線をより明るく照らします。これがドライバーの視線を誘導し、快適性と安全性が向上します。ダイナミックコーナリングライトは、機械式ではなく電子制御されます。

ガラスに対する工夫

パノラミックルーフシステム

第2世代が発売されたとき、パナメーラに初めてパノラミックルーフシステムが提供されました。ルーフは2枚の大きなガラス面で構成されています。前方部分はチルト/スライド式電動サンルーフ、後方部分は固定ガラスルーフです。パノラミックルーフシステムを通じて入射する大量の光によって、室内はより明るく快適になります。陽射しが強すぎる場合は、電動ロールアップサンシェードを使って室内を暗くすることができます。(エグゼクティブシリーズ)

ガラス

ポルシェはニューパナメーラのために、リアのティンテッドプライバシーガラスに加えて、赤外線反射&遮音ガラスを提供します。リアには、乗員を強い陽射しから守りプライバシーを保護するために、電動ロールアップサンシェード(サイドウインドウおよびリアウインドウ)を装着することもできます。リアウインドウのサンシェードは、リバースギアが選択されると自動的に下がります。

イオナイザー

イオン化技術を利用してパナメーラの室内の空気の質を改善します。予備知識:イオン化は空気中の細菌や有害粒子を減少させます。

シート

拡張メモリー付フロント用アダプティブスポーツシート(18-way電動調節機能)

エルゴノミクスに優れたスポーツシートは、専用のステッチとより深いサイドサポートによって通常のシートと区別されます。リアシートのデザインも独特です。フロントシートでは、サイドサポートも調節できるので、合計18-wayの電動調節機能を備えることとなります。

拡張メモリー付コンフォートシート／スポーツシート(リア、8-way電動調節機能)

オプションとして、リアのセパレートシートにも電動調節機能が用意されます(バックレストの角度、座面の長さ、4-wayランバーサポート)。このリアシートにはメモリー機能も備わります。パナメーラのリアコンフォートシートにシートヒーターとシートベンチレーションを装着する場合、大型のコンフォートヘッドレストを備えるリアシートをオーダーすることもできます。(エグゼクティブシリーズ)

シートヒーター／シートベンチレーション／マッサージ機能

パナメーラ4Sモデルには、シートヒーターが標準装備されます。パナメーラ ターボでは、リアシートにもシートヒーターが備わります。リアシートヒーターは、4Sモデルにもオプションで用意されています。全モデルのシートは、オプションとしてシートベンチレーションとマッサージ機能を装着してオーダーすることもできます。

快適システム

ソフトクローズドア

ドアを閉めるときにドアクロージング機構が自動的に作動します。(エグゼクティブシリーズ)

※仕様は国によって異なることがあります。

燃料消費量とCO₂排出量

パナメーラ ターボS E-ハイブリッド:複合燃費2.9リッター/100km、
エネルギー消費量16.2kWh/100km、CO₂排出量66g/km

パナメーラ ターボS E-ハイブリッド エグゼクティブ:複合燃費2.9リッター/100km、
エネルギー消費量16.2kWh/100km、CO₂排出量66g/km